

福岡大学法科大学院 2022

Institute for Legal Practice Fukuoka University



Message

小さな成功体験の積み重ねから 司法試験合格という目標達成へ

本法科大学院ではこれまで、「人間性豊かで専門性を備えた真のプロたる法曹を育成する」という理念の下、法科大学院教育について常にその内容・方法を模索し、また実践してきました。

法科大学院の学修では、事案を的確に読み解き、そこから法的な問題を正確に発見・抽出し、これを適切に解決していくことのできる能力を身につけ、研ぎ澄ましていくことが求められます。このような能力は、受け身の勉強、記憶一辺倒の詰め込み勉強では決して身につくものではありません。種々の課題に主体的、積極的に取り組み、自分の頭でトコトン考え抜くことによって徐々に身についていくものです。そのため、努力を惜しまず、安易に自分に限界を設けず、弛まぬ努力を継続していくことが肝要です。

教員・学生間、学生相互間、さらにはアカデミック・アドバイザーやチューターの弁護士の先生方との間において、討論・質疑応答の形でコミュニケーションをとりながら思考トレーニングを継続的にを行い、小さな成功体験を積み重ね、着実にステップを駆け上がっていくことにより、司法試験合格という目標に辿り着くことができるはず。常にモチベーションを維持しながらハードな勉強を続けていくことは並大抵のことではありませんが、自分を信じて突き進んでください。

法科大学院長
村上 英明
MURAKAMI Hideaki



Institute for Legal Practice
Fukuoka University

教育理念・教育方針・養成する法曹像

福岡大学法科大学院では、人間性豊かで 専門性を備えた真のプロたる法曹を育成します

社会正義を実現する法曹

人権を擁護する身近な弁護士、世の中の公正を追求する裁判官、社会正義の実現を目指す検察官など幅広い人材を養成します。

本法科大学院は、市民に信頼され、十分な法的サービスを提供できる豊かな人間性を身につけた法曹、すなわち、地域社会における身近な弁護士として、市民の人権、平穏な生活、権利利益を擁護する法曹を養成するとともに、世の中の公正を追求する裁判官、社会正義の実現を目指す検察官など幅広い人材を養成し、市民が安心して暮らせる法的環境の整備を目指しています。

社会の発展に貢献する法曹

企業、自治体、NPO など、様々な領域の社会活動を支える法曹を養成します。

地域の人々が豊かで快適な生活を実現し、尊厳ある人生を全うするためには、その基盤となる地域経済ははじめ地域社会全体の発展が不可欠な条件となります。

九州・山口地域は、アジアの玄関口としての福岡を中心として、多数の優良な地場企業が優れた技術力や人的資源を背景に経済的な飛躍を遂げるに十分な基盤を形成しつつあります。

このような地域経済の基盤となる企業に対して良質な法的サービスを提供できる弁護士を養成していきたいと考えています。また、地方自治体、NPO等の組織で活躍する組織内弁護士(インハウスローヤー)への期待が高まっています。本法科大学院は、このような期待にも応えていきたいと考えています。

あらゆる方面に対応できる法曹

地域に根ざし、地域に通じ、幅広く人々の暮らしを支える法曹を養成します。

福岡など九州・山口地域の中心都市で活躍する法曹には、専門性の高い分野に特化して、高度な法的サービスを提供するスペシャリストとして社会に貢献していく道もあります。法学以外の専門教育を修得した人材に高度な法学教育を提供し、多様な専門知識や経験に裏付けられた新しいタイプの法曹を社会に輩出することもまた本法科大学院の使命であると考えています。

アジアと密接な関係を持つ福岡の地理的条件から、人々の交流や企業活動は国境を越えて展開しており、今後ますますこの傾向が強まっていくものと思われます。そして、これにともなう九州・山口地域という地域社会にあっても、国際的な経済活動や取引分野に実務法曹として活動の場を求めようとする人々が増加するものと予想され、これらの人々のニーズに応えることもまた本法科大学院の使命であると考えています。

index

- p1. 法科大学院長メッセージ / p2. 教育理念・教育方針・養成する法曹像 / p3. 福岡大学法科大学院の特色 /
p5. 法曹になるまでのプロセス / p6. カリキュラム / p8. 在学生の声 / p9. サポート体制 /
p11. 学修環境 / p12. 司法試験関連・合格実績 / p13. 入試情報 学費・奨学金 /

福岡大学法科大学院の特色



1

一人ひとりに寄り添いきめ細かに指導する徹底した学修支援

本法科大学院は各学年20人定員で、教員と学生の距離をできるだけ縮めて、一人ひとりに寄り添いきめ細やかな個別指導を徹底する学修支援体制をとっています。

法科大学院棟内の自習室フロアのすぐ上に専任教員の研究室があるため、学修中に生じた疑問点を、すぐさま納得のいくまで質問し、解決することができます。

また、授業以外のマンツーマン指導や自主ゼミなど、正規のカリキュラムのほかに徹底した学修支援体制も整えています。例えば、8月の「短答集中ゼミ」や2～3月の「もう一押しゼミ(論文対策)」では、専任教員が司法試験の受験対策支援を行っています。

(P.9へ)



2

法学未修者教育の充実

入学者のほとんどが法学未修者であることが本法科大学院の特色の一つです。令和3年4月現在では、在籍者34人全員が未修者コースでの入学者です。創設以来の修了者も186人のうち未修者コースでの修了者は170人と、91.4%を占めています。

また、平成26年度に行った未修者教育に重点を置いたカリキュラム改正後の修了者(平成28～令和元年度未修者コースでの修了者:計19人)から、未修者コース修了1年目での司法試験合格者を3人輩出しています。(P.6・7へ)



3

入学前のサポート体制の強化

法学未修者の入学者の多い本法科大学院では、受験前から法科大学院の授業を実際に体験することのできる制度を充実させています。(授業体験、早期履修制度(本学法学部在学生対象)、科目等履修生制度)

また、合格後の入学前教育として、プレセミナー(憲法、民法、刑法、法情報・法文書入門)、在学生や修了弁護士との懇談会などを開催し、入学後の授業にスムーズに入ることのできる環境を整えています。(P.9へ)



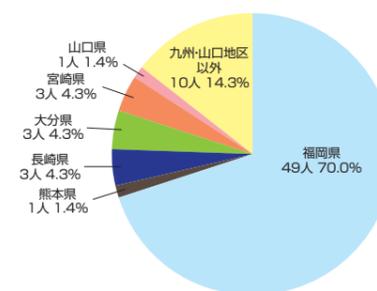
4

少人数教育の効果が現れた合格実績・地域社会に貢献する法曹の輩出

現行の司法試験は令和2年までに15回実施されています。本法科大学院からの司法試験合格者は74人を数え、累計合格率は42.77%となっており、創設以来、堅実に司法試験の合格者を輩出し続けています。

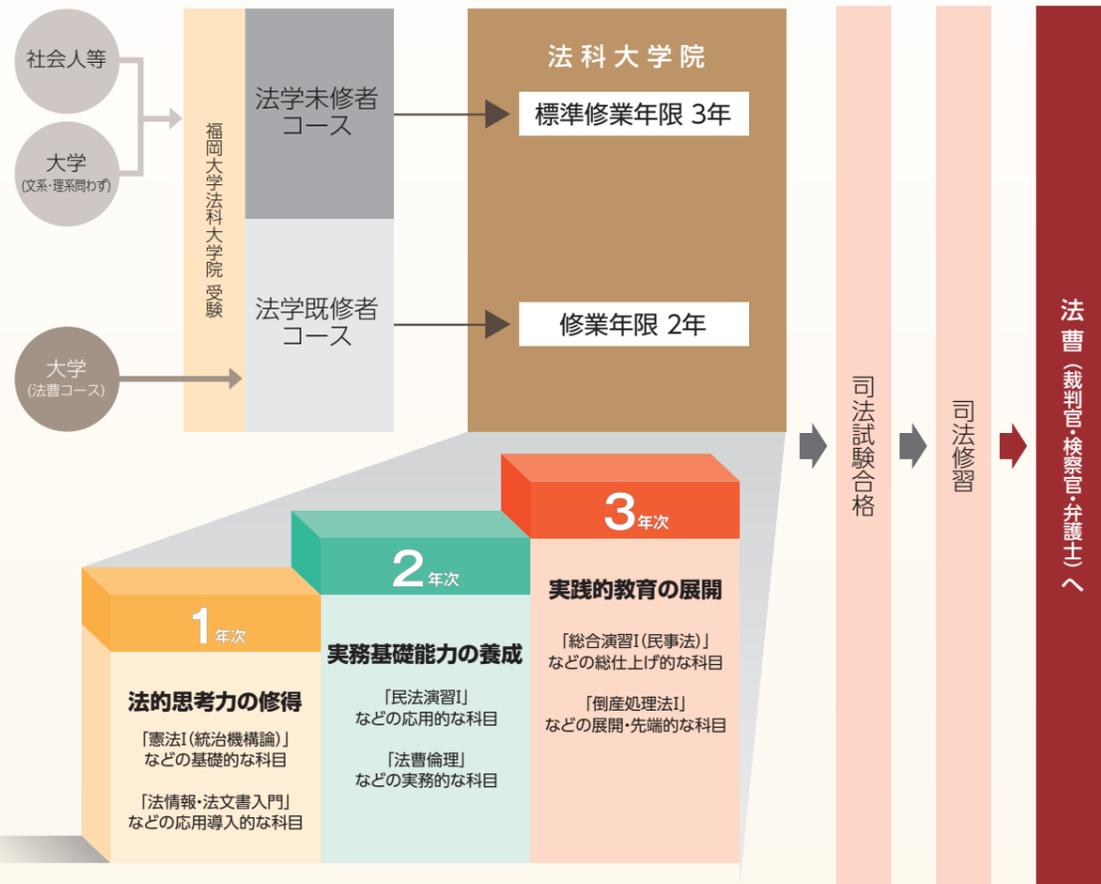
また、本法科大学院修了弁護士の九州・山口地区での登録の割合は、85.7%(令和3年3月現在)となっており、本法科大学院が教育理念に掲げる「地域に根ざし、地域に通じ、幅広く人々の暮らしを支える法曹」を着実に輩出し続けています。(P.12へ)

本法科大学院修了生 弁護士登録地域



法曹になるまでのプロセス

福岡大学法科大学院から法曹へのプロセス



法科大学院の課程を修了することにより、法務博士の学位のほか司法試験の受験資格を得ることができます。司法試験に合格し、司法修習生として採用され、司法修習の最終試験に合格し終了すると、裁判官、検察官、弁護士となることができます。

本法科大学院では皆さんが将来、実務法曹として活躍するうえで必要となる能力を十分に修得することができるようにカリキュラムを編成しています。

下位年次では、基本となる法的思考能力の修得をめざし、法律基本科目を中心として配置し、法の理論教育を徹底して行っています。上位年次では、専門的な実務教育を展開し、総合的な問題解決能力を養います。また、法の理論教育と実務教育では、相互の関連性に親しんでもらい、それぞれの深い理解を得ることも目指しています。

そして、本法科大学院では、課程を修了することが司法試験の受験資格となることから、各年次において細やかに履修指導を行います。

カリキュラム

法的思考能力を効率的に修得できる、体系的なカリキュラム

本法科大学院では、少人数での授業を通じて、法の理論と法的思考能力を身につけます。法律問題が専門化、多様化、複雑化する現代において、問題解決のあり方や技術を体得できるカリキュラムが整っています。

カリキュラム (令和3年度入学生適用)

※○は必修科目、△は選択必修科目
単位：2単位(但し、「判例講読」、「刑事実務演習」は1単位、「特別演習I B・II B・III B」は4単位)

	第1年次	第2年次	第3年次
法律基本科目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 憲法I(統治機構論) ○ 憲法II(基本的人権論) ○ 行政法I(行政過程論) ○ 民法I(総則) ○ 民法II(物権法) ○ 民法III(担保物権法) ○ 民法IV(債権総論) ○ 民法V(契約法) ○ 民法VI(不法行為法) ○ 民法VII(家族法) ○ 民事訴訟法I ○ 刑法I(総論) ○ 刑法II(総論・各論) ○ 刑法III(各論) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政法II(行政救済論) ○ 商法 ○ 会社法I(企業統治) ○ 会社法II(企業金融) ○ 民事訴訟法II ○ 民事訴訟法III ○ 刑事訴訟法I ○ 刑事訴訟法II 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合演習I(民事法) ○ 総合演習II(公法) ○ 総合演習III(刑事法) ○ 憲法演習II ○ 行政法演習II ○ 商法演習II ○ 刑事訴訟法演習
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法律基本演習 ○ 刑事訴訟法入門 ○ 裁判制度概論 ○ 判例講読 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民法演習I ○ 民法演習II ○ 民法演習III ○ 憲法演習I ○ 行政法演習I ○ 民法演習IV ○ 民事訴訟法演習 ○ 商法演習I ○ 刑法演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民事実務演習 ○ 家事事件処理手続論 ○ 民事紛争処理手続論 ○ 企業法務論 ○ リーガル・クリニック ○ リーガル・コミュニケーション演習 ○ エクスターンシップ
法律実務基礎科目	法情報・法文書入門	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法曹倫理 ○ 民事実務基礎論 ○ 刑事実務基礎論 ○ 刑事実務演習 	
隣接科目	紛争処理の法理論 法社会学	法と企業会計 法と行政	法と情報 アジア法制度論
基礎法学			法と医学 外国文献講読

法科大学院連携科目 (2・3年次)
協定に基づいて、福岡県弁護士会が派遣した講師が他法科大学院で行う科目を受講することができます。
▶九州大学 倒産法実務 / ジェンダーと法

展開・先端科目
△ 倒産処理法I、△ 倒産処理法II、△ 国際私法I、△ 国際私法II、△ 国際公法、△ 経済法
△ 環境法、△ 労働法、△ 労働法演習I、△ 労働法演習II、△ 租税法、△ 知的財産法
民事執行・保全法、民事執行・保全の実務、医療福祉と人権、環境訴訟の実務、保険法
交通事故賠償論、自治体法務論、社会保障法、刑事弁護論、実務刑罰論、子どもの権利
都市法、銀行取引と法、消費者法、展開・先端系演習I、展開・先端系演習II、展開・先端系演習III、特別演習IA、特別演習IB、特別演習IIA、特別演習IIB、特別演習IIIA、特別演習IIIB

- 修了要件 ・標準修了年限は3年です。ただし、法学既修者は2年で修了できます。
- ・98単位以上(必修科目65単位及び選択必修科目4単位以上。選択科目については、法律基本科目の応用科目6単位以上、法律実務基礎科目2単位以上、基礎法学・隣接科目4単位以上、展開・先端科目8単位以上・計20単位以上。また、全ての選択必修科目・選択科目のうちから9単位以上)を修得すれば、**法務博士(専門職)の学位が授与されます。**



時間割

法学未修者コース 1年次生(前期)(例)

		月	火	水	木	金
1時限	9:00~10:30	憲法Ⅱ (基本的人権論)	刑法Ⅰ (総論)			
2時限	10:40~12:10			判例購読		
3時限	13:00~14:30	民法Ⅳ (債権総論)	刑事訴訟法入門		裁判制度概論	民法Ⅰ (総則)
4時限	14:40~16:10				民法Ⅱ (物権法)	
5時限	16:20~17:50		民法Ⅶ (家族法)			法情報・ 法文書入門
6時限	18:30~20:00					

長期在学履修生 夜間コース1年目(前期)(例)

		月	火	水	木	金
6時限	18:30~20:00	憲法Ⅱ (基本的人権論)	民法Ⅶ (家族法)		民法Ⅰ (総則)	アジア法制度論
7時限	20:10~21:40					

長期在学履修制度(昼間または夜間開講)

本法科大学院では、入学時に就業している、または入学後に就業する等の理由により、標準修業年限の3年間を超えた履修計画を有する方について、5年間での課程修了を認める長期在学履修制度を設けています。

長期在学履修制度は、未修者コース(標準修業年限:3年間で課程修了)のみ適用されます。

履修の申し出等の詳細は令和4年度学生募集要項にて必ずご確認ください。なお、出願前に制度の説明を希望される場合は、ご相談ください。

■履修

未修者コースの授業科目を5年間で履修することによって、所定の98単位以上を修得し課程を修了することができます。入学前の所定の期日までに履修計画書等を提出することにより、昼間または夜間での履修を決定します。

■学費

学費等は3年間分を5年間で納入することになります。

■夜間コース

本法科大学院では、地域社会で活躍されている社会人の方々に対して法曹へのチャンスを提供する観点から、全国で数少ない夜間コースを設けています。

夜間コースは、長期在学履修制度を利用して夜間(月~金曜日の6時限・7時限)に開講の授業科目を5年間で履修することによって、所定の98単位以上を修得し課程を修了することができます。

浦宗 祐

URAMUNE Tasuku

法学未修者コース3年次生

■出身大学・学部
鹿児島大学
法文学部法政策学科

私の1日のスケジュール

7:00	起床
8:30	登校
8:40	自習(刑事訴訟法、倒産法)
12:00	昼休み
13:00	授業(刑事訴訟法)
14:40	授業(倒産法)
16:10	自習(憲法、会社法)
19:30	帰宅、家事、入浴等
20:30	自習(レポート作成等)
24:00	就寝

未修者が多い本法科大学院では、初めて法学を学ぶ学生のための授業も開講されており、未修者への配慮が行き届いています。また、学生数が少ない分、先生方の手厚い指導を受けることができます。授業中の質疑応答も充実しており、法曹に必要な「法的思考力」を身に付けることができます。先生方の研究室は同じ法科大学院棟にあるため、疑問があればすぐに質問することができます。これらの点は、学生数の多い大規模校にはない魅力だと思います。

本法科大学院には「未修者が司法試験に合格するための環境」があります。あと必要なのは自分自身の努力だけと考えながら、毎日勉強に励んでいます。

嶋田 香苗

SHIMADA Kanae

法学未修者コース2年次生

■出身大学・学部
福岡大学 法学部

私の1日のスケジュール

7:00	起床
10:00	登校
10:40	授業(憲法演習)
12:10	昼休み
13:00	授業(刑事訴訟法)
14:40	授業(行政救済論)
16:30	下校
17:00	授業の復習・予習
19:00	夕食
20:00	授業の復習・予習
24:00	就寝

本法科大学院では、授業のほかに、担当の先生方が行ってくださる教科指導やゼミがあります。教科指導やゼミについては、先生方がどのようなことを学修したいかを聞いてくださり、学生の希望に沿った授業が行われているため、自身の疑問点をすぐに解決することができます。また、このような先生方のサポートのほかに、チューターの弁護士の方先生方に相談できる制度もあり、知識面だけでなく、どのように勉強したらよいかわからないといった不安や生活面についてもサポートがなされており、充実した環境の中で勉強できていると感じています。

横山 海斗

YOKOYAMA Kaito

法学未修者コース2年次生

■出身大学・学部
西南学院大学 法学部

私の1日のスケジュール

8:00	起床、掃除
8:30	自習(AAゼミの予習)
10:40	授業(法律基本演習)
12:10	自習(AAゼミの予習・ 短答過去問)
13:30	昼食、昼寝
14:40	授業(刑法Ⅲ(各論))
16:10	自習(短答過去問)
18:30	AAゼミ(刑法)
20:00	夕食、散歩、入浴
22:40	自習(復習)
23:30	ストレッチ、就寝

アカデミック・アドバイザー制度やチューター制度を利用できることが、本法科大学院の魅力の一つです。現役で活躍されている弁護士とあらゆる相談ができます。初學者が陥りやすい「何が分からないのかわからず、言葉で表現することすらままならない状態」であっても、質疑応答をとおして、解決の糸口を一緒に探していただけます。また、先生方からも丁寧な答案添削を受けられるので、非常に助かっています。

黒岩 啓

KUROIWA Hajime

長期在学履修生(夜間コース)
3年目

■出身大学・学部
立命館大学 法学部
社会人経験あり

私の1日のスケジュール

5:00	起床、朝食
5:45	出勤
6:30	自習(行政救済論の予習)
8:30	仕事(地方公務員)
17:15	退勤
18:15	登校、夕食
18:30	授業(行政救済論)
20:00	授業終了、下校
21:00	帰宅、入浴
21:30	自習(行政救済論の復習)
24:00	就寝

私は、日中仕事をしながら、本学夜間コースに通っています。九州初の夜間コースが開設されたことにより、仕事と通学の両立が可能になりました。また、入学前に授業体験や施設見学をし、入学したいとの想いを強くしましたが、入学後に改めてその素晴らしさを実感しています。本学には、司法試験合格に向けた質の高い少人数教育、修了生の弁護士や事務室による様々な支援、充実した施設など学修のための必要かつ十分な環境が整っており、後は自らが目標に向かってひたすら努力するだけという贅沢な場所が待っています。本学で、志ある仲間と共に法曹を目指しませんか。



入学前のサポート

法科大学院進学を考えている方へ

▶授業体験

実際の1回の授業を受講し法科大学院の雰囲気や体験できます。主に1年次生が受講する授業への参加となります。施設見学や進学説明のご希望も受け付けています。

▶早期履修制度

本学法学部在学中に法科大学院の授業を履修できます。

▶科目等履修生制度

法科大学院の受験資格を有する方が法科大学院の授業を履修できます。



在学中のサポート

▶担任制・個別面談

担任制をとり、個別面談を行うなど学生一人ひとりの学修・生活面を担当がサポートします。

小テスト成績等の情報を集約した「学生カード」によって、各学生の学力状況や問題点などを適切に把握し個別指導を行います。

▶チューター制度

本法科大学院出身の若手弁護士が、履修上の悩みや学修方法の相談、各科目の具体的な質問に至るまで、幅広くきめ細やかに支援します。

令和3年度
チューター ▶ 前田 恭輔 弁護士 ▶ 神崎 達範 弁護士

▶アカデミック・アドバイザー

豊富な実務経験を有する弁護士が、法律基本科目の重要ポイントを押さえたゼミを開講して学修を支援し、基本科目の一層の理解を図ります。

令和3年度
アカデミック・
アドバイザー ▶ 佐野 俊明 弁護士 ▶ 岸野 慎司 弁護士
▶ 柴尾 知宏 弁護士 ▶ 中谷 正太 弁護士

法科大学院入学予定の方へ

▶入学予定者ガイダンス/OB・OGとの交流会

入学後の学修や生活をイメージしやすくするために、入学後の学修について説明を行うガイダンス、弁護士等として活躍する修了生との交流会を開催しています。

▶プレセミナー

特に法学未修者が法律になじみ、4月からの本格的な勉学に弾みをつけてもらうことを目的として、「憲法」「民法」「刑法」「法情報・注文書入門」のプレセミナーを実施しています。

法科大学院の授業を体験し、学修方法などに関する具体的なアドバイスを受けることができます。

▶学修環境の利用

入学前の3月から、在学生と同様の学修環境(自習室など)を利用し授業開始に向けての十分な準備をすることができます。

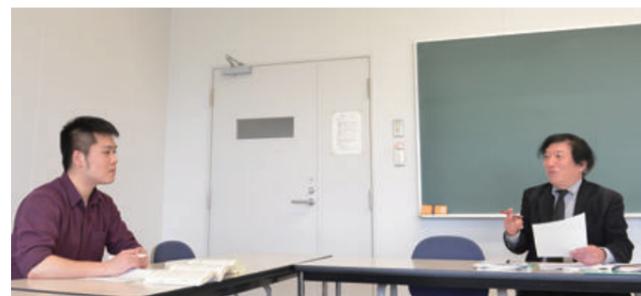
教育支援システムを利用して、判例を検索したり、システム内の「基礎力確認テスト」を受けて、理解度を確認したりすることにより、入学後の授業にスムーズに入れます。

▶司法試験受験対策講座

8月の「司法試験体験受験会」や「短答集中ゼミ」、さらに2～3月の「もう一押しゼミ(論文対策)」で、専任教員による徹底した司法試験受験対策支援を行います。司法試験に合格した修了生からは、司法試験合格につながったという感想がよく聞かれます。

▶模擬試験受験料補助

経済面での負担を軽減し、模擬試験を受験する機会を増やすために、「TKC全国統一模試」などの模擬試験の受験料の一部補助を行っています。



修了後のサポート

▶法曹を目指す方

法務研修生制度

本法科大学院修了者を対象に、「法務研修生」制度を設けています。司法試験に向けて、受験準備期間中も、学内施設の利用やチューターによる個別指導、アカデミック・アドバイザーによる学修支援、司法試験受験対策講座、模擬試験受験料補助などについては在学中と同様の環境が保障され、安心して勉強に集中できる体制をとっています。また、修了後も継続的なサポートを行うため、担任制を導入しています。

司法試験合格後の就職支援

本法科大学院を修了した弁護士による「就職活動説明会」、併せて、社会人になった時に役立つ内容を盛り込んだ「就職活動マナー講座」を開催しています。

▶法曹以外の進路を目指す方

法曹以外の進路(公務員・民間企業法務部等)など多様な進路選択を支援

本法科大学院修了者向けに、九州・山口地区の企業の説明会実施に取組んでいます。また、企業などからの求人情報の発信を行い、進路指導担当教員による個別相談が受けられる体制を整えています。

司法試験合格者進路先(74人)



■ 弁護士事務所採用 ■ 弁護士で起業
■ 検事任用 ■ 司法修習中
■ その他(企業法務部、大学教授等)

教員紹介 (令和3年4月1日現在)

福岡大学法科大学院は、ここに紹介する12人の専任スタッフが中心となり、24人の非常勤講師(兼任・兼任)とともに実践的な教育指導にあたっています。その構成は、教育能力に優れた研究者教員に加え、実務家教員として経験豊かな元裁判官、元検察官、弁護士など多様な陣容となっています。

専任

12人
(うち実務家教員5人)

雨宮 啓 AMEMIYA Hiroshi
教授
弁護士
民事法、銀行法務

新屋 達之 SHINYA Tatsuyuki
教授
法学修士
刑事訴訟法

山下 義昭 YAMASHITA Yoshiaki
教授
法学修士
行政法

屋宮 憲夫 OKUMIYA Norio
教授
福岡大学法学部

奥村 勝 OKUMURA Masaru
教授
福岡大学情報基盤センター

稲場 悠介 INABA Yusuke
弁護士

佐野 誠 SANO Makoto
熊本大学
法学部 准教授

原島 良成 HARASHIMA Yoshinari
熊本大学
法学部 准教授

石松 勉 ISHIMATSU Tsutomu
教授
法学修士
民法

平江 徳子 HIRAE Tokuko
教授
弁護士、元検事
刑事法実務

井上 能孝 INOUE Yoshitaka
准教授
経済学修士
商法

小野寺 一浩 ONODERA Kazuhiro
教授
福岡大学法学部

下田 大介 SHIMODA Daisuke
准教授
福岡大学法学部

宇加治 恭子 UKAJI Kyoko
弁護士

瀧本 直 TAKIMOTO Tadashi
弁護士

平野 互 HIRANO Wataru

山口 幸雄 YAMAGUCHI Yukio
弁護士、元判事

木村 道也 KIMURA Michiya
教授
弁護士
刑事法実務、民事訴訟実務

三隅 珠代 MISUMI Tamayo
教授
弁護士
刑事法実務、民事法実務

大庭 沙織 OBA Saori
准教授
修士(法学)
刑法

北坂 尚洋 KITASAKA Naohiro
教授
福岡大学法学部

中村 伸理子 NAKAMURA Noriko
講師・弁護士
福岡大学病院医療安全管理部

後藤 富和 GOTO Tomikazu
弁護士

知名 健太郎定信 CHINA Kentarousadanobu
弁護士

吉田 晋 YOSHIDA Shin
医師

三浦 祐輔 MIURA Yusuke
派遣裁判官 判事

木村 元昭 KIMURA Motoaki
教授
弁護士・元判事
民事訴訟実務

村上 英明 MURAKAMI Hideaki
教授
博士(法学)
憲法、地方自治法

藤村 賢訓 FUJIMURA Masanori
准教授
修士(法学)
民法

李 黎明 LI Leimei
教授
福岡大学法学部

佐野 俊明 SANO Toshiaki
弁護士

林 秀文 HAYASHI Hidetomi
公証人 元判事



法科大学院の授業は、法科大学院棟内で行われます。

棟内には、講義室、演習室、研究室のほか、自習室、模擬法廷教室、コンピュータラボ室、指導室などがあり、快適な学修環境が保たれています。また、無線LANが利用可能な環境も整備されており、各種の法律関連の電子資料が学内ネットワークを通して自習室から利用できます。

施設・設備

講義室・演習室 5F・6F

授業や教科指導に使用します。また、演習室はアカデミック・アドバイザーによる指導の際にも使用します。

コンピュータラボ室 5F

法科大学院LANで結ばれた計10台のパソコンその他のOA機器が配備された施設です。「法情報・法文書入門」などの実習の授業が行われます。

授業以外の時間帯には、学生が情報検索、文書やプレゼンテーション資料の作成などに自由に利用できます。

自習室(164席) 3F

入退室管理システムを備えた、本法科大学院生であれば自由に利用できる施設です。(図書・資料を備えています。)

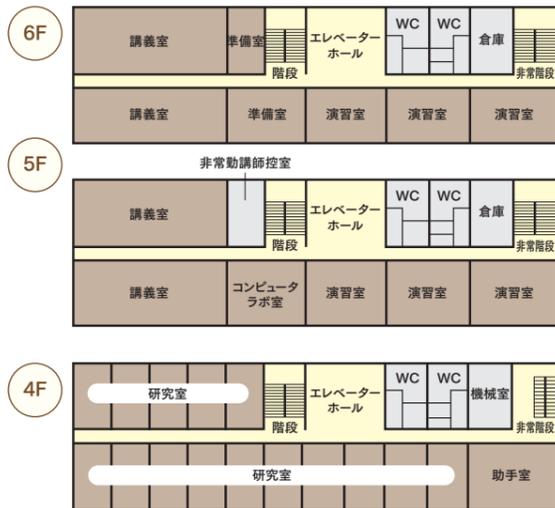
自習室の広いスペースの中で、各自のパソコンを使用しながら落ち着いた学修することができます。

模擬法廷教室 3F

実際の法廷を再現した教室です。「民事実務演習」「刑事実務演習」では、この模擬法廷教室で模擬裁判を行うなど、実務を強く意識した教育を行っています。

指導室 3F

学生に対する個別的な学修指導、チューターによる個別指導を行います。



関連施設 大学内の中央図書館、学生食堂、健康管理センター、ヒューマン・ディベロップメントセンター等の施設を利用できます。



弁護士法人 福岡リーガルクリニック法律事務所

当センターは、学内の学生・教職員のみならず一般の方にも広く法的サービスを提供する目的で、平成22年に設立された大学キャンパス内の法律事務所です。また、本法科大学院における臨床法学教育の支援、本法科大学院出身弁護士の実務能力養成の支援等の機能も担っており、法科大学院を医学部に例えるなら、大学病院的な存在です。



司法試験合格者の声 (令和2年合格)

The Voice of Successful Applicant

意外と思われるかもしれませんが、合格まで私はとても楽しく勉強ができました。もちろん、不安や失敗に苦しんだことも確かですが、法律という学問は一生をかけても味わい尽くせない楽しさがあると思います。私にとって、条文・判例・過去問の全てが奥深いもので、考えることの喜びを与えてくれました。不安や失敗の苦しみを忘れさせてくれたのは、考えることの楽しさでした。皆さんも、不安や失敗の苦しみを忘れる程、法律を楽しんでください。その先に必ず合格が待っていると思います。

成迫 達成 出身大学・学部 慶應義塾大学 文学部

既修者コース 社会人経験あり



NARISAKO Tatsunari

司法試験合格までには、長い時間が必要です。後輩の皆さんにおかれましては、当然一発合格を目指されていると思います。しかし、多くの方は司法試験不合格を経験します。その時には、「1度や2度不合格することも当たり前である」と思ってください。家族や友人、社会の目が怖ろしいと感じるかもしれませんが、それはあなたの目標の前では無意味なことです。不屈の心で合格を勝ちとってください。応援しています。

藤田 大輝 出身大学・学部 福岡大学 法学部

未修者コース

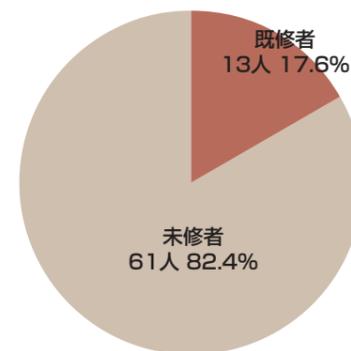


FUJITA Daiki

司法試験合格実績

今までの司法試験合格者の内訳

法学未修者・法学既修者別



本法科大学院からは、多彩な人材を法曹界へ送り出しています。

出身大学別	出身学部別	社会経験の有無
福岡大学 22人	法学部 57人	社会人 27人
九州大学 14人	経済学部 3人	非社会人 47人
西南学院大学 5人	文学部 2人	
中央大学 5人	薬学部 2人	
北九州市立大学 4人	経営学部 1人	
熊本大学 4人	工学部 1人	
早稲田大学 2人	商学部 1人	
青山学院大学 1人	総合科学部 1人	
京都大学 1人	総合管理学部 1人	
熊本県立大学 1人	第三学群 1人	
慶應義塾大学 1人	発達科学部 1人	
神戸学院大学 1人	文化教育学部 1人	
神戸大学 1人	法文学部 1人	
佐賀大学 1人	理工学部 1人	

Bar exam Pass record

入学者選考日程・方法

詳細の情報は、令和4年度学生募集要項にて必ずご確認ください。

①募集人員 20人 未修者コース15人程度 既修者コース5人程度

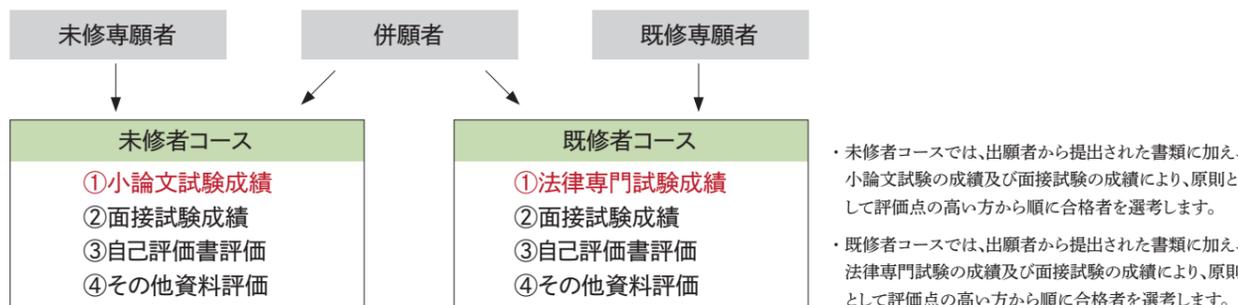
②入学者選考日

日程	出願期間	選考日	合格発表日
A日程	令和3年 6月28日(月) ~ 7月 6日(火)	令和3年 7月17日(土)	令和3年 8月 6日(金)
B日程	令和3年 9月27日(月) ~ 10月5日(火)	令和3年 10月16日(土)	令和3年 10月29日(金)
C日程	令和4年 1月17日(月) ~ 1月25日(火)	令和4年 2月 5日(土)	令和4年 2月24日(木)

※災害(台風、その他)等により試験が実施できない場合は、選考日を翌日に延期します。

③選考方法

【A日程・B日程・C日程共通】 A日程・B日程・C日程をそれぞれ受験することが可能です。各日程の書類提出及び検定料の納入が必要となります。



併願制度について 各日程とも、既修者コースと未修者コースを併願することができます。なお、併願しても検定料は同じです。

※合格判定は、まず既修者コース試験について行い不合格となった方について、次に未修者コースの志願者として合格判定をします。なお、未修者コースの合格判定に際しては、法律専門試験の成績は一切考慮されません。

④入学検定料 15,000円

入学者選考の状況・結果

		令和3年度	令和2年度	令和元年度
志願者(人)	既修者コース	7	13	7
	未修者コース	24	26	27
	合計	31(うち併願6)	39(うち併願9)	34(うち併願4)
受験者(人)	既修者コース	7	12	7
	未修者コース	23	25	27
	合計	30	37	34
合格者(人)	既修者コース	0	0	1
	未修者コース	15	17	16
	合計	15	17	17
競争倍率(%)		2.00	2.18	2.00

令和3年度入学者選考概況	
志願者	31人(法学既修者:7人 法学未修者:24人)
合格者	15人(法学既修者:0人 法学未修者:15人) ・平均年齢 29.2歳 ・男性 12人 女性 3人 ・社会人 5人 非社会人 10人 ・法学系 12人 非法学系 3人
入学者	13人(法学未修者:13人)

学費等納入金

入学金・授業料等		
入学金	本学学部卒業・本学大学院修了	55,000円
	他大学卒業・他大学院修了	110,000円
授業料	年額	600,000円
教育充実費	年額	120,000円
委託徴収金	年額	18,100円※

長期在学履修者(5年間)の学費等は、授業料および教育充実費の3年間分を5年間で納入することになります。

※年次等により金額は異なります。

奨学金制度

名称	種別	人数	奨学金の額	利子	返還期間	支給実績(人)			
						令和2年度	令和元年度	平成30年度	
福岡大学	特待生奨学金	給費	入学時:5人以内 入学2年次:3人以内 入学3年次:3人以内	年額 60万円 (授業料相当額)	-		5	8	8
	準特待生奨学金	給費	入学時:5人以内 入学2年次:3人以内 入学3年次:3人以内	年額 30万円 (授業料半額相当額)	-		7	3	7
	高田法曹育成基金奨学金	給費	各年次:2人程度	年額 96万円 (月額8万円)	-		4	4	4
日本学生支援機構	第一種奨学金	貸与	日本学生支援機構からの内示による	月額 50,000円 又は 88,000円	無利子	最長20年	14	14	11
	第二種奨学金	貸与	日本学生支援機構からの内示による	月額 50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	有利子	最長20年	4	5	3

・特待生奨学金及び準特待生奨学金の入学2年次以降については、前年度の成績、GPA等の支給基準により該当者に支給します。既修者の特待生奨学金については、2人までにつき原則2年間給付される制度もあります。(ただし、成績優良の場合)

・高田法曹育成基金奨学金は、福岡大学法学部を卒業して本法学部大学院に入学し、成績が優秀と認められたものが対象となります。

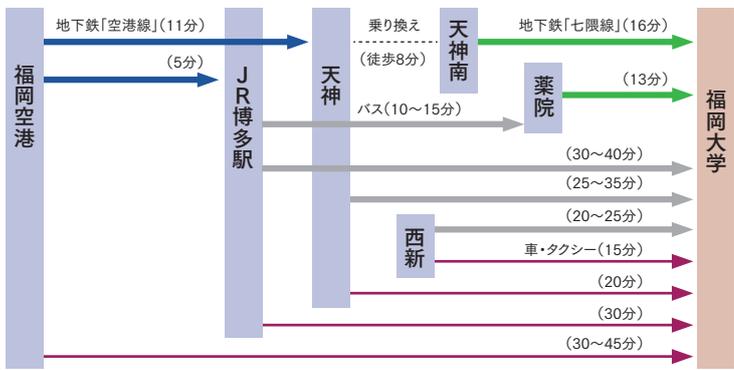
・上記の内容は、標準修業年限3年(既修者コースは修業年限2年)の場合の内容です。長期在学履修の場合には(夜間コース含む)、別途の内容となります。



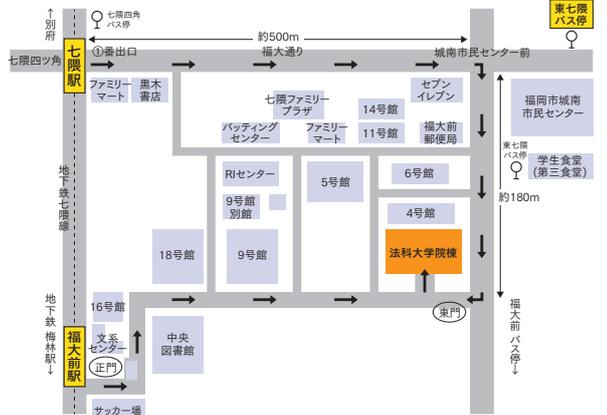
福岡大学アクセスマップ



大学へのアクセス方法



福岡大学法科大学院までの経路図



■ 本法科大学院までの所要時間

地下鉄七隈線／「七隈駅」(①番出口)からの所要時間：徒歩約8分 ※「福大前駅」よりも「七隈駅」からの経路が简单です。
 西鉄バス／16番・12番「東七隈バス停」からの所要時間：徒歩約2分 114番・140番「七隈四角バス停」からの所要時間：徒歩約10分



福岡大学法科大学院
 INSTITUTE FOR LEGAL PRACTICE FUKUOKA UNIVERSITY
 〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
 福岡大学法科大学院事務室
 TEL ▶ 092-871-6631 (代表) FAX ▶ 092-865-7075
 URL ▶ <https://www.ilp.fukuoka-u.ac.jp/>
 E-mail ▶ houka@adm.fukuoka-u.ac.jp

